



牧之原市長 杉本基久雄（すぎもと・きくお）

1957（昭和32）年牧之原生まれの60歳。静岡県立島田商業高等学校卒業。旧榛原町消防団副団長、旧榛原町役場奉職、牧之原市都市整備課長・秘書広報課長・総務部長・副市長を歴任し、平成29年10月30日に牧之原市長就任。

## 牧之原市の未来のために

# 継続と改革

## 新市長に聞く

### 子どもを産み育てやすい環境の実現

市が直面している人口減少や少子化は、社会現象でもあつる若い世代の方たちの流出が最大の要因と考えられます。その課題解決として、「子育て世代から高齢者まで、雇用と福祉が充実した、誰もが安心して豊かに暮らせるまちづくり」を推進してまいります。いかにして若い世代の皆さんに定住し子育てしてもらうかを、さらに充実していく必要があります。その一端として、子どもを産み育てやすい環境を整えて



まいります。第2子以降の保育料の無償化や子育て支援センターの充実、親子で楽しめる公園の整備、英語教育の充実など特色のある教育と冷暖气の整備など教育環境の充実が求められています。

### 産業の活性化とにぎわいの創出

産業振興では、茶業をはじめとする農業振興に関して、JAや茶商をはじめ茶業関係者、行政が一体となって、牧之原茶を全国ブランドに押し上げ消費の拡大に努めるほか、契約栽培や輸出に取り組む生産者への支援、複合作物の導入など、もうかる農業、担い手が育つ農業に取り組む必要があります。

中小企業小規模企業振興条例に基づき、商工会や中小企業家同友会の皆さんと振興計画を策定し、中小企業、小規模企業の活性化に取り組みまいります。

2020年の東京五輪サーフィン競技のホストタウン登録を受け、マリンスポーツやレジャーに加え、文化観光の交流の促進を図るなか、沿岸部活性化にも取り組んでまいります。

市長就任に当たり杉本基久雄新市長に、これからの「まちづくり」をどのように進めていくか抱負を聞きました。

### 安心安全なまちづくり

これからの4年間の市政の舵取り役として、市民の皆さんの期待にお応えできるよう全力で取り組んでまいります。私は、これまでの副市長職を含む42年間の行政経験を活かし、市民の皆さんに安心安全なまちづくりを進めてまいります。

### 継続と改革

私はスローガンとして、牧之原市の未来のための「継続と改革」を掲げています。継続は、国や県とのパイプ、各種関係団体とこれまで培ってきた信頼関係の継続、第2次総合計画を着実に推進していくというものであります。改革は、日々変化する社会情勢に応じた改革が必要です。政策決定にあたっては、

### 市民の生の声を聴く

私はこれまでの行政経験の中で、多くの市民の皆さんとの対話を重ね、さまざまなご意見を伺いました。公共施設の適正化、子育て支援、茶業を始めとする農業振興策、榛原総合病院の診療体制の充実、障がい者・高齢者福祉の充実など多岐にわたります。また、大規模企業から中小企業まで、牧之原市におけるものづくりが盛んであること、牧之原市の経済に大きく貢献していることを強く感じました。

指します。

### 対話を重視し、できる方法を考える

公共施設の適正化は、総論賛成各論反対となる傾向が非常に高いことから、個別計画の策定にあたっては、議会や市民の皆さんに丁寧な説明し、理解をいただきながら推進していく必要があります。また、数年後に更新時期を迎える広域施設の火葬場と共々、10年後に更新時期を迎えるゴミ処理センターについても、関係市町との協議を重ね、整備計画を策定してまいります。

市民の皆さんとの対話を重視しながら、市民同士、市民と行政が互いに「学び」「気付き」「共感し」「支え合う」ことで、子育て世代から高齢者まで、雇用と福祉が充実した、誰もが安心して豊かに暮らせるまちづくりが実現できるものと思います。できない理由を考えるのではなく、どうしたら実現できるのかを、皆さんと共に知恵を出し合い、まちづくりを進めて行きたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

